

(別表5)

介護福祉学科 教育課程

領域	教 育 内 容	科 目	授業形態	第 1 年 次	第 2 年 次	時間数	実務 経験			
				前期	後期			前期	後期	
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	講義	30			30			
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	講義		30		30			
		レクリエーションワーク	講義・演習		30		30	◎		
	社会の理解	社会の理解 1	講義		30		30			
		社会の理解 2	講義		30		30			
		社会の理解 3	講義		30		30	◎		
	人間と社会に関する選択科目	地域福祉	講義・演習			30	30			
	情報処理	演習		30		30				
小計				30	180	30	0	240		
介護	介護の基礎	基礎介護総論 1	講義	30			30	◎		
		基礎介護総論 2	講義・演習		30		30	◎		
		基礎介護 1	講義	30			30			
		基礎介護 2	講義	20			20			
		基礎介護 3	講義・演習	30			30			
		基礎介護 4	講義・演習			30	30			
		基礎介護 5	講義・演習			12	12			
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術 1	講義	10	20		30	◎		
		コミュニケーション技術 2	講義・演習			30	30			
	生活支援技術	生活支援技術 1	講義・演習	30			30	◎		
		生活支援技術 2	講義・演習	20			20	◎		
		生活支援技術 3	講義・演習	30			30	◎		
		生活支援技術 4	講義・演習		20		20	◎		
		生活支援技術 5	講義・演習		30		30			
		生活支援技術 6	講義・演習		30		30			
		生活支援技術 7	講義・演習			20	20			
		生活支援技術 8	講義・演習			30	30			
		生活支援 1	講義・演習	20			20			
		生活支援 2	講義・演習		30		30			
		生活支援 3	講義・演習			20	20			
		生活支援 4	講義・演習			20	20			
		介護過程	介護過程 1	講義		30		30		
	介護過程 2		講義・演習		30		30	◎		
	介護過程 3		講義・演習			30	30	◎		
	介護過程 4		講義・演習			30	30	◎		
	介護過程 5		講義・演習				30	◎		
	介護総合演習	介護総合演習 1	講義・演習	30			30	◎		
		介護総合演習 2	講義・演習		30		30	◎		
		介護総合演習 3	講義・演習			30	30	◎		
		介護総合演習 4	講義・演習				30	◎		
	小計				250	250	252	60	812	
	介護実習	介護実習Ⅰ-1	実習		35		35			
		介護実習Ⅰ-2	実習		35		35			
		介護実習Ⅰ-3	実習		35		35			
		介護実習Ⅰ-4	実習		35		35			
		介護実習Ⅰ-5	実習			21	21			
		介護実習Ⅱ-1	実習			133	133			
		介護実習Ⅱ-2	実習				161	161		
	小計				0	140	154	161	455	
小計				250	390	406	221	1267		
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	発達と老化1	講義		30		30	◎		
		発達と老化2	講義			30	30	◎		
	認知症の理解	認知症の理解 1	講義	30			30			
		認知症の理解 2	講義・演習			30	30			
	障害の理解	障害の理解 1	講義	30			30	◎		
		障害の理解 2	講義			30	30			
	こころとからだのしくみ	こころのしくみ	講義		30		30			
		こころとからだ 1	講義	45			45	◎		
	こころとからだ 2	講義		45		45				
小計				105	105	90	0	300		
医療的ケア	医療的ケア	医療的ケア 1	講義・演習		30		30	◎		
		医療的ケア 2	講義・演習			38	38	◎		
		医療的ケア演習	演習			20	20			
小計				0	30	58	0	88		
合計				385	705	584	221	1895		
選択科目		福祉レクリエーション	講義・演習	18			18	◎		
		障害者スポーツ	講義・演習	12			12			
		小計	30	0	0	0	30			
総 計				415	705	584	221	1925		

(注) 各科目の履修認定は履修時間とする。但し介護実習に付き、各々定められた施設での実習時間を以て履修とする。

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
人間の尊厳と自立	西村 伸	1 年	15 回	☒ 前期 ☐ 後期	☒ 必修 ☐ 選択

◇講義概要

介護・福祉の実践の根底となる必要な思想、倫理、価値を学ぶ。具体的には、介護・福祉実践の基本となる福祉理念、欲求、自立について学習する。人の尊厳、権利擁護などについて、相模原障害者施設殺傷事件や優生思想などから考える。生命倫理の4原則に基づき介護・福祉実践を考える。

◇到達目標

介護福祉士の倫理、価値に基づいた介護実践を理解し、振り返ることができるようになる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	・概説—介護の仕事、介護福祉士、倫理綱領	講義	
第2回	・欲求(1)—マズローの欲求段階説	講義	
第3回	・欲求(2)—事例①②、フランクルの自己実現理論	講義	
第4回	・福祉の理念(1)—福祉思想の歴史、ノーマライゼーション	講義	
第5回	・福祉の理念(2)—ノーマライゼーション、コミュニティーケア	講義	
第6回	・福祉の理念(3)—自立生活運動、この子らを世の光に	講義	
第7回	・自立(1)—色々な視点から見た自立、総体としての自立	講義	
第8回	・自立(2)—ライフサイクルから見た自立、自己選択・自己決定	講義	
第9回	・自律(3)—自律、依存と選択	講義	
第10回	・尊厳(1)—相模原事件、人権の歴史、幸福追求権と生存権	講義	
第11回	・尊厳(2)—利用者の権利	講義	
第12回	・尊厳(3)—利用者の権利侵害が起こる状況、権利擁護の視点	講義	
第13回	・権利擁護—権利擁護の分類、様々な権利擁護の方法	講義	
第14回	・福祉の倫理に基づく実践—生命倫理の4原則	講義	
第15回	・試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (50%) ☐ 実技試験 (0%) ☐ 演習評価 (0%) ☐ 小テスト (0%) ☒ レポート (50%) ☐ その他 (0%)
------	---

教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編『人間の理解』中央法規出版、第2版、2022年（最新・介護福祉士養成講座1）
参考図書	プリント配布
留意事項	レポートは要領・締切を守り、必ず提出のこと、予習・復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
人間関係とコミュニケーション	西村 伸	1 年	15 回	前期 後期	必修 選択

◇講義概要

日常の人間関係とコミュニケーションの理解を通して、介護・福祉実践で用いる技法を習得する。①日常の人間関係とコミュニケーション、②介護実践で用いる各種ソーシャルワーク理論・心理療法、③対人援助職としての基本となるバイスティックのケースワークの7原則の学習を行う。

◇到達目標

自己のコミュニケーション・人間関係・生活について振り返ることによって自己覚知を促し、介護・福祉実践で専門的なコミュニケーションを用いることができるようになる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	コミュニケーションの要素(1)―場面、関係性、無意識性	講義	
第2回	コミュニケーションの要素(2)―沈黙、熱意、言語、非言語、	講義	
第3回	コミュニケーションの要素(3)―周辺言語、空間、外観、環境	講義	
第4回	家族の理解とファミリーマップ(1)―家族、家族図の描き方	講義	
第5回	家族の理解とファミリーマップ(2)―家族システム理論、事例	講義・演習	
第6回	生態学モデルの理解とエコマップ(1)―生態学モデル	講義	
第7回	生態学モデルの理解とエコマップ(2)―生態図の描き方、事例	講義・演習	
第8回	心の理解と精神分析療法(1)―精神分析学、心の仕組み・現れ方	講義	
第9回	心の理解と精神分析療法(2)―精神分析療法の実際、解釈	講義	
第10回	ストレスの理解と認知行動療法(1)―ストレス	講義	
第11回	ストレスの理解と認知行動療法(2)―認知行動療法とその実際	講義	
第12回	ケースワークの7原則(1)―個別化、意図的な感情表現	講義	
第13回	ケースワークの7原則(2)―統制された情緒関与、受容、非審判的態度	講義	
第14回	ケースワークの7原則(3)―自己決定、秘密保持	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (50%) ☐ 実技試験 (0%) ☐ 演習評価 (0%) ☐ 小テスト (0%) ☒ レポート (50%) ☐ その他 (0%)
------	--

教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編『人間の理解』中央法規出版、第2版、2022年（最新・介護福祉士養成講座1）
参考図書	プリント配布
留意事項	レポートは要領・締切を守り、必ず提出のこと、予習復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
レクリエーションワーク (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

人間関係の形成とコミュニケーションの基礎な知識とレクリエーション支援を通して習得する実践能力を構築するとともに<u>チームマネジメント</u>を理解する (レクリエーションインストラクター資格取得科目 課程認定校資格取得に付きその他必要要件あり)
--

◇到達目標

レクリエーション活動を通して実践能力を身につける レクリエーションインストラクターの資格取得を目指す

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	レクリエーション支援の方法 (回想法)	講義・演習	
第2回	レクリエーション支援の実施 (ソング伝え方)	講義・演習	
第3回	レクリエーション活動の習得 (レクダンスと手話を用いたレク)	講義・演習	
第4回	レクリエーション支援の実施 (集団レク ハードル設定)	講義・演習	
第5回	レクリエーション支援の実施 (集団レク CSS プロセスの活用)	講義・演習	
第6回	レクリエーション支援理論 (活動分析)	講義・演習	
第7回	レクリエーション支援の実施 (ソングー手遊び)	講義・演習	
第8回	レクリエーション支援理論 (レクリエーション財)	講義・演習	
第9回	レクリエーション支援の方法 (製作 GW)	演習	
第10回	レクリエーション支援のプログラム (プログラムについて)	講義	
第11回	レクリエーション支援のプログラム (計画演習)	演習	
第12回	レクリエーション支援のプログラム (製作演習)	演習	
第13回	レクリエーション支援の実施 (ロールプレー見学)	演習	
第14回	レクリエーション支援の実施 (ロールプレイ演習)	演習	
第15回	レクリエーション支援の方法 (計画方法)	講義・演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ■演習評価 (20 %)
	☐ 小テスト (%) ■レポート (80 %) ■その他 (%)

教科書	なし
参考図書	レクリエーション活動援助法 (中央法規出版) レクリエーションの基礎 (日本レクリエーション協会) 適宜配布
留意事項	資格取得科目に付きレクリエーション現場実習を課す

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
社会の理解 1	福島 正人	1	30	前期	必修 選択

◇講義概要

社会を構成する家族、地域の機能変化と社会制度の関係を理解する

◇到達目標

国民の生活を支える施策、法制度を理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	社会の変化 少子と高齢化①	講義	
第2回	社会の変化 少子と高齢化②	講義	
第3回	社会の変化 少子と高齢化③	講義	
第4回	家族形態の変化①	講義	
第5回	家族形態の変化②	講義	
第6回	家族力、地域力の変化①	講義	
第7回	家族力、地域力の変化②	講義	
第8回	人口構成の変化と社会保障①	講義	
第9回	人口構成の変化と社会保障②	講義	
第10回	社会を支える諸制度の成り立ち①	講義	
第11回	社会を支える諸制度の成り立ち②	講義	
第12回	戦前から戦後の社会福祉①	講義	
第13回	戦前から戦後の社会福祉②	講義	
第14回	選択的福祉から普遍的福祉へ	講義	
第15回	定期試験	試験	

評価方法	■定期試験 (70 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) □レポート (%) ■その他(授業態度 30 %)
------	---

教科書	新・介護福祉士養成講座 第2巻 社会の制度と理解(中央法規出版)
参考図書	
留意事項	予習、復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
社会の理解2	福島 正人	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

社会を構成する家族、地域の機能変化と社会制度の関係を理解する

◇到達目標

国民の生活を支える施策、法制度を理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	生活、家族とは？	講義	
第2回	地域と福祉	講義	
第3回	ライフスタイルの変化	講義	
第4回	社会保険の仕組み①	講義	
第5回	社会保険の仕組み②	講義	
第6回	社会保険の仕組み③	講義	
第7回	介護保険①	講義	
第8回	介護保険②	講義	
第9回	介護保険③	講義	
第10回	介護保険④	講義	
第11回	障害者施策①	講義	
第12回	障害者施策②	講義	
第13回	諸制度①	講義	
第14回	諸制度②	講義	
第15回	定期試験	試験	

評価方法	☒ 定期試験 (70 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ その他 (授業態度 30 %)
------	--

教科書	新・介護福祉士養成講座 第2巻 社会の制度と理解(中央法規出版)
参考図書	
留意事項	予習、復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
社会の理解3 (実務経験のある教員等による授業科目)	原田 佳枝・加藤 貴久	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

[原田] 介護保険制度創設背景と、目的、現在の動向を理解する。サービスの流れ、専門職の役割について理解する。地域包括支援センターの役割を理解する。 [加藤] 障がい福祉を取り巻く現状と動向、現状へとつながる歴史 障害者総合支援法を中心として障害福祉制度 障がい、障がいのある方の生活、支援の実情

◇到達目標

[原田] 介護保険制度を知り、利用者負担の理解ができる。施設ケア・在宅ケアについてサービス内容が理解できる。介護保険の申請から利用までの一連の流れが理解できる [加藤] 介護福祉士国家試験の合格レベルの知識の獲得 不明な知識を自ら調べることで、難解文章を読み解く技術の獲得 障がいのある人の視点に立って物事を考えられる姿勢と人権意識の獲得

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	介護保険の目的	講義	原田
第2回	介護保険法の改正の流れ	講義	原田
第3回	介護保険のしくみ 保険者と被保険者について	講義	原田
第4回	介護保険の申請方法 利用者負担について 現物給付と償還払い	講義	原田
第5回	介護保険給付の対象者について	講義	原田
第6回	介護サービス内容 指定サービス事業者について	講義	原田
第7回	国、都道府県、市町村の役割	講義	原田
第8回	公的介護保険サービスと自費サービスについて	講義	原田
第9回	介護支援専門員とは	講義	原田
第10回	講師の経験を通じた障がい福祉の経験、障がいの定義	講義	加藤
第11回	障がい福祉制度の外観（障害者総合支援法を除く）	講義	加藤
第12回	障害者総合支援法（目的とサービスの概要を中心に）	講義	加藤
第13回	障害者総合支援法（税源と負担、サービスの詳細を中心に）	講義	加藤
第14回	障害者総合支援法（相談支援と障がいのある児童を中心に）	講義	加藤
第15回	試験	試験	原田

評価方法	■試験（ 90 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 10 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	--

教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編集「最新介護福祉士養成講座2 社会の理解」中央法規出版
参考図書	ヨシタケシンスケ、伊藤亜紗「みえるとかみえないとか」アリス館
留意事項	テキストは必ず持参すること、予習復習すること 試験は、2対1の配分で評価する

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
地域福祉	福井敦子・奈良市社会福祉協議会(7名)	2	30	前期	必修 選択

◇講義概要

〔福井〕 国の施策が施設福祉から在宅福祉・地域包括ケアに舵がきられる中、地域の中で貢献できる人材育成の観点から地域福祉の理解を深める
〔社協〕 介護福祉士として必要な地域共生社会の実現に向けた取り組みや地域包括ケアシステムの理解を深め、これらを実現するために社協活動や関連諸制度などを学ぶ

◇到達目標

〔福井〕 地域福祉の必要性を理解し、方法や実践力を身に付ける
〔社協〕 社協活動や関連諸制度を学ぶことを通じて、受講者自身が地域共生社会の実現に向けてできることを考え、実践することの必要性を知る

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	社会福祉協議会について（組織・役割・活動など） 地域福祉活動計画	講義・演習	前多
第2回	狭間のニーズに対するアプローチ いいばしょプロジェクト・出番と役割	講義・演習	大西 田中
第3回	活動の実際① 介護予防教室	講義・演習	前田
第4回	活動の実際② ボッチャを通じた居場所づくり	講義・演習	今中
第5回	地域住民や関連機関との連携 介護予防・生活支援の体制整備 生活支援 Co が目指す地域像と取り組みの実際	講義・演習	梅木 杉原
第6回	地域密着型施設の紹介 地域とは	講義・演習	福井
第7回	地域福祉の目的 高齢者と地域	講義・演習	福井
第8回	地域福祉の実現に向けて 個別支援の方法	講義・演習	福井
第9回	地域支援 コミュニティワークの方法	講義・演習	福井
第10回	認知症サポーター養成講座 [DVD 使用]	講義・演習	福井
第11回	若年性認知症の人を地域で支える	講義・演習	福井
第12回	「若年性認知症サポートセンター絆や」の取り組み	講義・演習	福井
第13回	将来どのような方法で地域支援を行っていくか	講義・演習	福井
第14回	施設等から地域に発信するポスター作り	講義・演習	福井
第15回	テスト	筆記試験	

評価方法	■試験（ 95 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %） ■その他（ 受講態度 5 %）
------	---

教科書	適宜プリント配付
参考図書	
留意事項	予習、復習をすること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
情報処理	松浦 仁志	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

介護福祉の仕事にかかわる情報処理の業務を行うための基礎を学ぶ。
(通知文書の作成、日報・仕事に関する書類作成)

◇到達目標

Word を用いて社内・外文書、社外文書を作成し、Excel を用いて目的に応じた管理表・チェックシートが作成できる。PowerPoint にて発表・報告ができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	パソコンについて マウス操作、キーボード入力操作 インターネット検索など	演習	1 章
第2回	Word による日本語入力、文章作成、ショートカットキーなど	演習	2 章
第3回	Word による文書作成、表の挿入、ページ罫線	演習	3 章 課題 1
第4回	Word による図、画像を用いた文書作成と保存	演習	3 章 課題 2
第5回	Word による p. 92～p. 95 までの課題作成 (1 つ以上) Excel の紹介、リボンの構成、セルへの入力 (文字、数式)	演習	3 章 課題 3
第6回	Excel による表の編集、オートフィル機能、関数について	演習	4 章 課題 4
第7回	Excel による表の編集、関数を用いた課題作成	演習	4 章 課題 5
第8回	Excel による相対参照と絶対参照、罫線、課題作成	演習	4 章 課題 6 (p. 138～)
第9回	Excel による IF 関数を用いた管理シートの作成など	演習	4 章
第10回	Excel によるグラフの作成、セル参照による管理シート作成	演習	4 章 課題 7 (p. 178～)
第11回	PowerPoint によるテキストのみでスライド作成・基礎学習	演習	5 章 課題 8 (p. 192～)
第12回	PowerPoint による図形、画像、SmartArt の挿入	演習	5 章 課題 9
第13回	PowerPoint によるアニメーションの挿入 (画像、SmartArt)	演習	5 章 課題 10
第14回	PowerPoint によるスライドショーを用いたプレゼンテーション	演習	発表
第15回	試験	筆記試験	

評価方法	■試験 (50 %) □実技試験 (%) ■演習評価 (50 %) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (0 %)
------	---

教科書	30 時間でマスター Office2013、実教出版株式会社
参考図書	プリント配付
留意事項	実習点、筆記試験により評価する

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
基礎介護総論 1 (実務経験のある教員等による授業科目)	原田 佳枝	1	30	前期	必修 選択

◇講義概要

介護の意義と役割、及び専門性について理解し、介護を必要とする人の個性を大切にしながら安全、安心の出来る介護や信頼のおける介護のあり方について学ぶ。また生活を支える介護、自立支援や個別ケアのあり方を学ぶ。

◇到達目標

介護の意義と役割、専門性について理解すると共に、その人らしい生活のあり方を知る
介護福祉士の歴史的背景を知り、介護福祉士としてのあり方を考え、目指す介護福祉士像が見えてくる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	介護福祉士について考える	講義	
第2回	介護の成り立ち歴史的背景	講義	
第3回	現在の介護 在宅介護の時代背景から現在の訪問介護について	講義	
第4回	現在の介護問題、将来の介護問題について	講義	
第5回	介護福祉士の活動の場と役割	講義	
第6回	介護について考える グループワーク発表	講義	
第7回	求められる介護福祉士像	講義	
第8回	社会福祉士及び介護福祉士法について	講義	
第9回	社会福祉士及び介護福祉士法に関する規定について 事例を通して考える	講義	
第10回	専門職団体について 介護福祉士会を考える介護サービスの意味と特性	講義	
第11回	介護福祉士の倫理 介護福祉士の対応を考える	講義	
第12回	自立支援の考えについて 利用者の意思決定について	講義	
第13回	自立支援と介護福祉士の役割について	講義	
第14回	介護予防とは 介護予防における介護福祉士の役割	講義	
第15回	まとめ試験		

評価方法	☒ 定期試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (10 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本 I (中央法規出版)
参考図書	
留意事項	予習・復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
基礎介護総論 2 (実務経験のある教員等による授業科目)	加納 岬	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

介護を必要とする人の理解をする。利用者を支援するために、介護実践における連携を学ぶ。利用者が安全に生活を過ごすために、介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解し、利用者と介護従事者の安全を学ぶ。

◇到達目標

高齢者や障害のある人の暮らしを理解する。多職種連携や地域連携の目的と意義を学ぶ。リスクマネジメントの手法や介護従事者の心身の健康管理を学ぶ。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	私たちの生活の理解	講義・演習	
第2回	介護を必要とする人たちの暮らし	講義・演習	
第3回	生活のしづらさの理解とその支援	講義・演習	
第4回	生活を支えるフォーマルサービスとは	講義・演習	
第5回	生活を支えるインフォーマルサービスとは	講義・演習	
第6回	インフォーマルサービス・フォーマルサービス 事例検討	講義・演習	
第7回	介護における安全の確保 リスクマネジメントとは	講義・演習	
第8回	介護における安全の確保 リスクマネジメントとは	講義・演習	
第9回	身体拘束とは	講義・演習	
第10回	高齢者虐待について	講義・演習	
第11回	高齢者虐待について 要介護者と消費者問題	講義・演習	
第12回	要介護者と消費者問題 多職種連携	講義・演習	
第13回	健康管理と意義と目的	講義・演習	
第14回	身体健康管理	講義・演習	
第15回	試験 まとめ	試験	

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ 中央法規 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
基礎介護 1	原田 佳枝 / 天神 陽子 森下 良亮 / 富澤 和矢	1	30	前期	必修 選択

◇講義概要

〔原田〕介護福祉士の活動の役割について考え、様々な視点から将来を考える 〔天神〕色彩のもつ心理的、物理的な効用を確認し、日々の生活、施設におけるレクリエーション、作業を考える一つのアプローチ方法、セルフケア方法を深める。
--

◇到達目標

〔原田〕介護を必要とする利用者の現状を知る。さまざまな介護サービスを理解し、個々の利用者に応じた支援を学ぶ。多職種の役割を知ることによりチームケアの中核を担う介護福祉士の役割を理解する。 〔天神〕各色のもつ特性、印象、心理的・物理的な影響を理解し、色を意識して意図して使えるようになる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	色相による心理的変化を考える 交感神経・副交感神経・暖色・寒色	講義・実習	天神
第2回	明度、彩度も合わせて考えてみよう 膨張色・収縮色・進出・後退・硬軟・軽重・興奮・沈静	講義・実習	天神
第3回	色の配置を考える 配色、対比、同化、面積効果、視認性	講義・実習	天神
第4回	多感覚知覚である色 パーソナルカラー、フードカラー	講義・実習	天神
第5回	セキスイハウスの見学実習	演習	原田
第6回	セキスイハウスの見学実習	演習	原田
第7回	サービス付き高齢者向け住宅とは	講義	原田
第8回	サービス付き高齢者向け住宅の見学実習	演習	原田
第9回	介護予防とは	講義	原田
第10回	介護予防の取り組み 見学実習を通して	演習	原田
第11回	災害ボランティアの心構え 奈良県ボランティアセンター	講義	田中
第12回	福祉災害に関する知識 奈良県ボランティアセンター	講義	田中
第13回	地域包括支援センターの介護福祉士の役割について	講義	富澤
第14回	地域包括支援センターのしくみ	講義	森下
第15回	地域包括支援センターの地域活動と役割	講義	森下

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (30 %) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (70 %) その他 (%)
------	---

教科書	新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ
参考図書	新・介護福祉士養成講座 社会と制度の理解
留意事項	予習・復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
基礎介護2	菊池 楓佳	1	20	前期	必修 選択

◇講義概要

計画書・報告書等の作成のために必要な語彙力を養うとともに、文の構成や展開を理解し、筋道の通った文章を組み立てられるようになることを目指す

◇到達目標

様々な文章に触れることと、漢字・異義語について学ぶことを通じて、筋道の通った文章を書けるようになる力を身につける

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	漢字について知る（漢字の成り立ちについて）	講義	
第2回	文章の基礎を学ぶ（主述、接続詞、句読点など）	講義	漢字テスト
第3回	感想文の書き方、話し言葉と書き言葉の違いを学ぶ	講義	
第4回	漢字と同音異義語について学ぶ①	講義	漢字テスト
第5回	文章の用法を学ぶ（尊敬語、「ら抜き言葉」など）	講義	
第6回	漢字と同音異義語について学ぶ②	講義	漢字テスト
第7回	意見文について学ぶ	講義	
第8回	漢字と同音異義語について学ぶ③	講義	漢字テスト
第9回	メール、履歴書、手紙のマナーを学ぶ	講義	
第10回	試験	試験	
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法	■試験（ 40 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20 %） □レポート（ %） ■その他（ 提出課題 40 %）
------	---

教科書	常用漢字の級別学習コンプリー新装版5級・2級、小論文チャレンジノート、その他プリント
参考図書	
留意事項	予習・復習をする

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
基礎介護 3	吉岡 陽子(手話)・内藤 恒史(点字) (手話通訳：布上 佳世)	1	30	前期	必修 選択

◇講義概要

〔吉岡〕聴覚障害者とのコミュニケーションの意義と役割を学ぶ 聴覚障害者の生活及び歴史(背景)、教育等を知る 手話での日常会話を学ぶ
〔内藤〕視覚障害者とのコミュニケーションの意義と役割を学ぶ 視覚障害者の生活を理解し、点字で日常会話が身につくよう学ぶ

◇到達目標

〔吉岡〕自己(家族)紹介や簡単なコミュニケーションを工夫しながら表現ができる 聴覚障害者の生活及び歴史(背景)、教育について知識を持つ
〔内藤〕視覚障害の特性と視覚障害のある人の生活上の困難と制約を理解する 視覚障害のある人の生活を支援する方法および留意点を理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	自己紹介 「聞こえないって何?」「コミュニケーション方法」	講義・実践	吉岡・布上
第2回	家族の紹介 指文字 「聴覚障害者の生活」グループトーク	講義・実践	吉岡・布上
第3回	数字の表現 疑問詞 「聴覚障害者の仕事について」	講義・実践	吉岡・布上
第4回	趣味 「聴覚障害者の教育と高齢福祉」グループトーク	講義・実践	吉岡・布上
第5回	講義 「ろうの親を介護した経験談」	講義	吉岡・布上
第6回	場所の表現 「聴覚障害者と災害」「合理的配慮」グループトーク	講義・実践	吉岡・布上
第7回	会話の練習 「手話通訳」「優生保護法」	講義・実践	吉岡・布上
第8回	交流会 (コミュニケーション体験)	演習	吉岡・布上
第9回	まとめ (今までの復習・講義の確認)	講義	吉岡・布上
第10回	試験	筆記試験	吉岡・布上
第11回	点字器の使い方、点字の書き方 (50音)	講義・演習	内藤
第12回	点字の書き方 (濁音・半濁音)	講義・演習	内藤
第13回	点字の書き方 (拗音)	講義・演習	内藤
第14回	点字の書き方 (数字・アルファベット)	講義・演習	内藤
第15回	簡単な文章の作成	講義・演習	内藤

評価方法	■試験 (20 %) ■実技試験 (30 %) □演習評価 (%) □小テスト (%) ■レポート (45 %) ■その他 (授業態度 5 %)
------	--

教科書	今すぐはじめる手話テキスト聴ちゃんと学ぼう！(全日本ろうあ連盟) 初めての点訳(全国視覚障害者情報提供施設協会)
参考図書	プリント配付
留意事項	レポート提出

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
基礎介護 4	中西信之・樋口ひとみ・吉本美枝 河野裕子・米田文博・池田沙弥香・竹内弘輝 日本レスキュー協会・西村明浩・田中さおり	2	30	前期	必修 選択

◇講義概要

多職種連携・チームアプローチのあり方を理解する。地域連携を学び、利用者が安心して生活を過ごすことができるようなサービスや、他職種の役割を理解する。

◇到達目標

多職種の役割を知ることによりチームケアの中核を担う介護福祉士の役割を理解する。
利用者を支えるさまざまな職種の内容や役割・介護福祉士との連携を学ぶ。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	マナー講座	講義	樋口
第2回	マナー講座の実践	講義	樋口
第3回	葬祭マナーとは	講義	樋口
第4回	葬祭マナーの実践	講義	樋口
第5回	ドッグセラピーの活動の場や効果について ドッグセラピーの実際	講義・演習	日本 レスキュー協会
第6回	障害児支援における介護福祉士の役割	講義	田中
第7回	福祉施設の展開と方法	講義	西村
第8回	ケアマネージャーとの連携	講義	竹内
第9回	言語聴覚士との連携	講義	河野
第10回	作業療法士との連携	講義	池田
第11回	理学療法士との連携	講義	米田
第12回	口腔ケアとは	講義	吉本
第13回	口腔ケアの実践	講義	吉本
第14回	高齢者とのスポーツ交流	講義	中西
第15回	高齢者とのスポーツ交流	講義・演習	奈良市レク

評価方法	□定期試験 (%)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	■レポート (100 %)	□その他 (%)

教科書	介護福祉士養成施設講座 第4巻 介護の基本Ⅱ 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
基礎介護5	門田 玲子	2	12	前期	必修 選択

◇講義概要

介護福祉における多様なニーズに対応できるようアロマの基礎知識を習得し、その応用として実習を行う。
また、アロマ検定に必要な知識も身につける。

◇到達目標

介護福祉の現場で、アロマの提案・活用が出来るようになる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	アロマセラピー検定2級対応講義（蒸気浴）	講義・演習	
第2回	アロマセラピー検定2級対応講義（手浴）	講義・演習	
第3回	アロマセラピー基礎知識講義（重曹クレンザー）	講義・演習	
第4回	アロマセラピー基礎知識講義（ルームフレグランス）	講義・演習	
第5回	アロマセラピー基礎知識講義（トリートメントオイル）	講義・演習	
第6回	ハンドマッサージ実習（相モデル）、試験	演習・試験	
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法	☒ 試験（100%） ☐ 実技試験（%） ☐ 演習評価（%） ☐ 小テスト（%） ☐ レポート（%） ☐ その他（%）
------	---

教科書	随時プリント配付
参考図書	
留意事項	復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
コミュニケーション技術1 (実務経験のある教員等による授業科目)	加納 岬	1	10 20	前期 後期	必修 選択

◇講義概要

介護におけるコミュニケーションの基本を理解する。さまざまな介護場面における利用者とのコミュニケーションを学ぶ。

介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割の理解をする。情報の共有方法を知る。

◇到達目標

利用者の状況に応じたコミュニケーション方法の習得をする。記録の方法・活用を知る。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	コミュニケーションの基本	講義・演習	
第2回	かかわりを示す5つの基本動作 ジョハリの窓	講義・演習	
第3回	態度に関する基本技術	講義・演習	
第4回	態度に関する基本技術 自己覚知とは	講義・演習	
第5回	質問の技法	講義・演習	
第6回	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 敬語の使い方	講義・演習	
第7回	言葉と表情 挨拶を通して 高齢者の特徴	講義・演習	
第8回	記録の意義と目的	講義・演習	
第9回	プロセスレコードとは プロセスレコードの展開	講義・演習	
第10回	プロセスレコードとは プロセスレコードの展開	講義・演習	
第11回	初対面の人とのコミュニケーション	講義・演習	
第12回	うつ病・統合失調症のコミュニケーション	講義・演習	
第13回	発達障害・知的障害のコミュニケーション	講義・演習	
第14回	さまざまな利用者とのコミュニケーション方法	講義・演習	
第15回	試験 まとめ	試験	

評価方法	☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術 中央法規 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
コミュニケーション技術2	山尾賀洋子(音楽)・菅野直美(クラフト) 竹村ひとみ(音楽療法)	2	30	前期	必修 選択

◇講義概要

介護場面に於ける利用者・家族とのコミュニケーションについて

- 〔山尾〕音楽を通して対象者が楽しみながら健康の維持増進ができ、また対象者とのコミュニケーション作りを図ることができる療法的レクリエーション支援者の養成を目指す
- 〔菅野〕高齢者を対象とする創作活動を学ぶ
- 〔竹村〕障がい者・高齢者を対象として音楽ツールを生かした音楽療法を学ぶ
(レクリエーションインストラクター資格取得科目 課程認定校に付きその他必要要件あり)

◇到達目標

- 〔山尾〕歌唱・歌遊び・楽器活動等の音楽を中心としたレクリエーションプランの作成から実践までが出来るようになる事を到達目標とする
- 〔菅野〕創作活動の実践を身につける
- 〔竹村〕音楽療法の理解と実践力等を習得する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	音楽の持つ特性と効能・春の歌(2月)	演習	山尾
第2回	実習に向けて5月・6月の歌・レクリエーション実践の留意点	演習	山尾
第3回	夏の歌(7月)・実習に向けて5月・6月の歌 復習・補習	演習	山尾
第4回	春の歌(3月・4月)	演習	山尾
第5回	冬の歌(1月)・秋の歌(8月)	演習	山尾
第6回	冬の歌(11月・12月)・ハンドベル	演習	山尾
第7回	秋の歌(9月・10月)	演習	山尾
第8回	実習に向けて9月・10月の歌復習・補習・レクプラン作成留意点	演習	山尾
第9回	9月のレクプラン作成	講義・演習	山尾
第10回	クラフト(カレンダー作りと折り紙)(レク活動の習得)	演習	菅野
第11回	クラフト(壁面リース材料づくり)	演習	菅野
第12回	クラフト(壁面リースと製作)	演習	菅野
第13回	クラフト(画用紙を使った切り絵ケース)	演習	菅野
第14回	音楽療法 ミュジックケア理解(レク活動の習得)	演習	竹村
第15回	音楽療法 ミュジックケア体験	演習	竹村

評価方法	□定期試験()% □実技試験()% ■演習評価(20 %) □小テスト()% ■レポート(80 %) ■その他()%
------	---

教科書	高齢者施設介護職員の為の「療法的レクリエーション音楽」(山尾賀洋子編)
参考図書	適宜配布
留意事項	(レクリエーションインストラクター資格取得科目に付き現場実習を課す 1年次レクリエーション科目とリンクさせる)

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援技術 1 (実務経験のある教員等による授業科目)	加納 岬	1	30	前期	必修 選択

◇講義概要

自立に向けた睡眠・移動の介護を学ぶ。睡眠・移動の意義を理解し、快適な介護方法を知る。
ベッドメイキングが実践できるようにする。安全・安楽な移動介助を学ぶ。

◇到達目標

ベッドメイキングの習得をする。個々に応じた睡眠環境・移動介助を習得する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	睡眠の意義と目的	講義	
第2回	睡眠の意義と目的 不眠時の対応方法	講義	
第3回	ベッドメイキングの意義 移動の意義と目的	講義	
第4回	移動介護の基本的理解	講義	
第5回	シーツ類のたたみ方 下シーツの敷き方	演習	
第6回	三角コーナー・四角コーナーの作り方	講義・演習	
第7回	枕・毛布の敷き方 防水シーツの敷き方	講義・演習	
第8回	ベッドメイキング	講義・演習	
第9回	ベッドメイキング 対面法	講義・演習	
第10回	対面法・背面法	講義・演習	
第11回	上方移動・水平移動	講義・演習	
第12回	起き上がり～端座位	演習	
第13回	端座位～立位	演習	
第14回	車いすの操作・介助方法 ベッド～車いす	講義・演習	
第15回	試験 まとめ	試験	

評価方法	☒ 定期試験 (100%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ(中央法規出版) 配布資料 介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援技術 2 (実務経験のある教員等による授業科目)	加納 岬	1	20	前期	必修 選択

◇講義概要

自立に向けた身じたく・移動の介護を学ぶ。身じたく・移動の意義を理解し、安全な介護方法を知る。
衣類交換・杖歩行・車いすの介助方法を習得する。尊厳を守り、快適で安全な介助を習得する。

◇到達目標

利用者の状況に応じた衣類交換・移動介助を習得する。ボディメカニクスの原則を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	車いす～ベッド ベッド～車いす 一部介助 全介助	講義・演習	
第2回	車いす～ベッド ベッド～車いす 全介助 スライディングボード	演習	
第3回	杖歩行の介助 歩行のための福祉用具	講義	
第4回	車いすの段差越え 杖歩行の介助	講義・演習	
第5回	身じたくの意義と目的	講義・演習	
第6回	衣服の着脱 一部介助 (前開き・かぶりの上衣・ズボンの介助)	講義・演習	
第7回	衣服の着脱 ベッド上での一部介助 (前開き・ズボンの介助)	演習	
第8回	衣服の着脱 ベッド上での一部介助 全介助 (前開き・ズボンの介助)	演習	
第9回	衣服の着脱 ベッド上での全介助	演習	
第10回	試験 まとめ	試験	
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ(中央法規出版) 配布資料 介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援技術3 (実務経験のある教員等による授業科目)	原田 佳枝	1	30	前期	必修 選択

◇講義概要

食事とは・・・を考え、自立に向けた食事の介護について理解する 的確な介護を提供するための技術を身につける ① 医療機関受診のための準備、診療時・検査時の援助方法について理解する ②薬剤使用時の基礎知識について理解し、正しい服薬および使用方法について学ぶ
--

◇到達目標

利用者にとっての食事のあり方について考えることが出来る 医療行為でないと原則されているものを理解し、薬剤使用時に必要な援助方法を学ぶ 利用者の思いを理解し、受診時に情報を適切に伝えることが正しい診断・治療に繋がることを知る
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	食事とは 「楽しい食事」について考える	講義	原田
第2回	食事の意義と目的	講義	原田
第3回	食事の介護 誤嚥防止について	講義	原田
第4回	障がいに応じた食事介護（認知症・視覚障害者）	講義	原田
第5回	正しい姿勢での食事を考える 椅子の高さや介護者の位置	講義・演習	原田
第6回	留意事項食事介護の事例問題 グループ検討	演習	原田
第7回	食事介護のアセスメント	講義	原田
第8回	口腔ケアとは 口腔機能を考える	講義	原田
第9回	口腔ケア 口腔ケアの介護を考える	講義	原田
第10回	口腔ケア スポンジブラシを作り介護方法を考える	演習	原田
第11回	実際の食事介護 誤嚥、脱水を考える介護	講義	原田
第12回	食事方法を考える	演習	原田
第13回	医療機関受診時の介護、服薬時・薬剤使用時の介護	講義	原田
第14回	オブラート使用による内服、外用剤の使用法・注意点	演習	原田
第15回	まとめ定期	試験	原田

評価方法	☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	新・介護福祉士養成講座第7巻 生活支援技術Ⅱ（中央法規出版）
参考図書	介護職のための医療行為&薬の基本完全ガイド（ひかりのくに）
留意事項	予習、復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援技術4 (実務経験のある教員等による授業科目)	加納 岬	1	20	後期	必修 選択

◇講義概要

自立した生活支援に向けて障害に応じた支援方法や、利用者の状態・状況に応じた介助方法を知る。
さまざまな障害に応じた介護方法の習得や障害に対するアセスメント能力を学ぶ。
内部障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援を学び、介護の注意点を理解する

◇到達目標

利用者の障害に対して、基本から応用に展開できる介護技法を理解する。
内部障害の特性を理解した、その方らしい日常生活が送れるような介護方法を身に付ける

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	視覚障害に応じた介護	講義	
第2回	視覚障害に応じた介護	講義・演習	
第3回	聴覚障害に応じた介護	講義	
第4回	言語障害に応じた介護	講義	
第5回	言語障害に応じた介護 内部障害に応じた介護	講義	
第6回	心臓機能障害に応じた介護 呼吸機能障害に応じた介護	講義	
第7回	呼吸機能障害に応じた介護 腎臓機能障害に応じた介護	講義	
第8回	膀胱・直腸機能障害に応じた介護 小腸機能障害に応じた介護	講義	
第9回	肝臓機能障害に応じた介護 免疫機能障害に応じた介護	講義	
第10回	試験 まとめ	試験	
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援技術 5	加納 岬 渡部 師巳	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

自立に向けた入浴・清潔の保持の意義を知る。さまざまな清潔保持・安楽な技法を学ぶ。
基本的な入浴・清潔保持の技法を理解する。爽快で安楽な介護を知る。
安全で安楽な体位を理解し、褥瘡予防につなげる援助方法を学ぶ

◇到達目標

入浴・清潔保持の技法を習得する。利用者の状況に応じた介護技法を理解する。
安全で安楽な体位や姿勢を理解し、実際に利用者の気持ちを考えながら行うことにより褥瘡予防に必要な技術を習得する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	入浴の意義・入浴の介助方法	講義	加納
第2回	洗髪の意義、実技マニュアル説明	講義・演習	渡部
第3回	洗髪の介助実習、まとめ	講義・演習	渡部
第4回	入浴介助 一般浴・特殊浴	演習	加納
第5回	入浴介助 一般浴・特殊浴	演習	加納
第6回	全身清拭	講義・演習	加納
第7回	全身清拭	演習	加納
第8回	褥瘡予防、安楽な体位について	講義・演習	加納
第9回	安楽な体位、および体位の工夫	講義・演習	加納
第10回	足浴 手浴 電法とは	講義	加納
第11回	足浴 手浴の介助	講義・演習	加納
第12回	寝衣の介助	演習	加納
第13回	整容について	講義・演習	加納
第14回	まとめ	演習	加納
第15回	試験	試験	加納

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ(中央法規出版)
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援技術6	原田 佳枝(排泄)・浅冴 清美(薬理)	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

〔原田〕排泄の仕組みを理解し、排泄介護について知る。 排泄に関しての他職種連携を学ぶ
〔浅冴〕介護福祉士として知っておきたい薬の基礎知識を学ぶ

◇到達目標

〔原田〕排泄の知識を得て、基本的な排泄技術を習得する
〔浅冴〕薬物療法の重要性、危険性を理解する

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	排泄の仕組み	講義	原田
第2回	排泄についての理解	講義	原田
第3回	排泄機能障害について 他職種連携について	講義	原田
第4回	紙おむつの種類、仕組みについて	講義	原田
第5回	紙おむつ、布おむつのあて方 女性の交換方法 陰部清拭方法	実技	原田
第6回	紙おむつ、布おむつのあて方 男性の交換方法 陰部清拭方法	実技	原田
第7回	ポータブルトイレの移乗方法	講義・実技	原田
第8回	ポータブルトイレの事例問題	実技	原田
第9回	尿器、便器の扱い方 介護方法	講義・実技	原田
第10回	排泄の事例検討	実技	原田
第11回	薬とは何か？ 薬の種類(剤型等)	講義	浅冴
第12回	疾病と治療薬 各論①	講義	浅冴
第13回	疾病と治療薬 各論②	講義	浅冴
第14回	重要な副作用・相互作用	講義	浅冴
第15回	まとめ試験	試験	原田

評価方法	☒ 定期試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (10 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ(中央法規出版) 症状から理解する薬のはたらきとつかい方(中央法規出版)
参考図書	
留意事項	予習、復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援技術 7	吉岡和也(腰痛予防・車いす)・大谷めぐみ(ヨガ) 平山久美(ダンス)・松岡真美(有料)	2	20	前期	必修 選択

◇講義概要

自立に向けた生活支援を基本として、さまざまな介護方法・生活支援を理解する。
演習を中心に、基本から応用へ適切な介護技法を考える。また、実践ができるようにする。

◇到達目標

A DL に応じた介護技術・生活支援の習得 介護福祉士として必要な知識の習得をする。
個々の生活スタイルや習慣を考えた支援方法を学ぶ

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	有料老人ホームとは	講義	松岡
第2回	有料老人ホームとは	講義・演習	松岡
第3回	車椅子整備について	講義・演習	吉岡
第4回	車椅子整備について	講義・演習	吉岡
第5回	腰痛予防について	講義・演習	吉岡
第6回	腰痛予防の実践 福祉用具の活用	講義・演習	吉岡
第7回	ダンスセラピーとは	講義・演習	平山
第8回	ダンスセラピーとは	講義・演習	平山
第9回	高齢者ヨガとは	講義・演習	大谷
第10回	高齢者ヨガとは	講義・演習	大谷
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (100%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ 介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援技術 8	大崎昌美(フットケア)/中西信之(スポーツレク) 熊井利将(おむつ)/仲田聡美(訪問)	2	30	後期	必修 選択

◇講義概要

自立に向けた生活支援について

様々なケアの方法を通して自立に向けた生活支援を理解する

スポーツレクリエーション指導者資格取得科目

最新の介護の情報を得て、自分自身で考える介護について確立する

◇到達目標

様々なケアツールを通してコミュニケーションの方法や自立した生活支援の方法を習得する
介護福祉士としてのあり方を考えあえるべき姿について考察する

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	フットケアについての基本 高齢者にとってのフットケアとは	講義	大崎
第2回	フットケアの注意点を考えながらの実技	講義・演習	大崎
第3回	排泄介護の考え方	講義	熊井
第4回	おむつの選び方、考え方	講義	熊井
第5回	事例に応じた排泄介護	演習	熊井
第6回	事例に応じた排泄介護 排泄介護を考える	演習	熊井
第7回	訪問介護の仕組みと実際	講義	仲田
第8回	スポーツレクリエーション概論	講義・演習	中西
第9回	スポーツレクリエーション生理学と参加促進について	講義・演習	中西
第10回	スポーツレクリエーション心理学と動機付け技術	講義・演習	中西
第11回	スポーツレクリエーション参加促進法	講義・演習	中西
第12回	継続のための場づくり	講義・演習	中西
第13回	動機付けの支援技術	講義・演習	中西
第14回	動機付けの支援技術	講義・演習	中西
第15回	安全管理と行政の仕組み	講義・演習	中西

評価方法	☐ 定期試験 (%)	☐ 実技試験 (%)	☐ 演習評価 (%)
	☐ 小テスト (%)	☒ レポート (100 %)	☐ その他 (%)

教科書	なし
参考図書	適宜配布
留意事項	課程認定校に付き資格取得ができる

令和 5 年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援 1（住環境）	金丸 早智子	1	20	前期	必修 選択

◇講義概要

人と空間の在り方から、加齢に対応した住環境の整備について、意義・目的を理解する。
整備のための基礎知識の習得を目指す。

◇到達目標

利用者に必要な支援を見出せるようになること、安全・安心な暮らしに必要な整備の在り方を提案できるようになることを目標とする。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	住まいの役割、人と生活空間	講義	
第 2 回	生活空間と生活行為・起居様式、各室の整備上の留意点 1	講義	
第 3 回	各室の整備上の留意点 2	講義	
第 4 回	室内気候の調整 1	講義	
第 5 回	室内気候の調整 2	講義	
第 6 回	安全に暮らすための生活環境 1	講義	
第 7 回	安全に暮らすための生活環境 2	講義	
第 8 回	安全に暮らすための生活環境 3	講義	
第 9 回	まとめ	講義	
第 10 回	試験	試験	
第 11 回			
第 12 回			
第 13 回			
第 14 回			
第 15 回			

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術 I」（中央法規出版）
参考図書	
留意事項	予習・復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援2	藤田 圭子	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

高齢者や障がい者の食事に対する注意点や、疾病の予防、重症化を防ぐために栄養バランスを整った食事作りの大切さを学ぶ

◇到達目標

高齢者や障がい者の摂食能力に合わせた調理の工夫や疾病の予防、重症化を防ぐための栄養バランスの整った食事作りについて理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	調理の工夫、衛生について	講義	
第2回	調理実習	実習	
第3回	嚥下困難時の調理の工夫	講義	
第4回	調理実習	実習	
第5回	咀嚼困難時の調理の工夫	講義	
第6回	調理実習	実習	
第7回	治療食について(骨粗鬆症)と栄養素	講義	
第8回	調理実習	実習	
第9回	治療食について(減塩食)と栄養素	講義	
第10回	調理実習	実習	
第11回	治療食について(糖尿病)	講義	
第12回	調理実習	実習	
第13回	低栄養の予防	講義	
第14回	調理実習	実習	
第15回	試験	筆記試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	プリント配付
参考図書	
留意事項	予習・復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援3（家事）	木村美由紀・井上直美・浅田ゆかり	2	20	前期	必修 選択

◇講義概要

家事の重要性について学び、介護保険制度の中でできる家事支援を学ぶ

◇到達目標

家事支援の基本となる知識と技術を学び、実践に活用できる
利用者の望む生活のための家事支援を行う視点を持つ

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	家事の重要性と介護保険制度の中でできる範囲を理解する	講義	木村
第2回	洗濯の意義 介助方法に関して理解を深める	講義	浅田
第3回	しみ抜きについて学び、実習を行う	実習	浅田
第4回	裁縫の基礎 意味、目的について 用具、道具、用途の理解	講義	井上
第5回	手縫いの基本 玉結び、玉止め、直線縫い、まつり縫い、ボタン付け	実習	井上
第6回	学んだ技術を活用して服の修繕を体験、作品を作る	実習	井上
第7回	学んだ技術を活用して服の修繕を体験、作品を作る	実習	井上
第8回	衣類、寝具の衛生管理 整理整頓の方法について	講義・演習	木村
第9回	掃除、買い物の方法と支援の仕方について	講義・演習	木村
第10回	基本的な家事の介護の理解度テストを行う	筆記試験	木村
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法	☒ 試験（70 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（30 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	随時プリント配付
参考図書	生活支援技術1 初任者研修テキスト
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援4	佐渡仁美(ネイル)・蜂須賀亜希子(メイク) 加藤貴久(国試対策)	2	20	前期	必修 選択

◇講義概要

自立に向けた生活支援を基本として、さまざまな介護方法・生活支援を理解する。
演習を中心に生きがいや、日々の生活に役割を持つことができる支援技法を考える。

◇到達目標

A DL に応じた生活支援の習得 介護福祉士として必要な知識を習得する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	ネイルケアとは	講義・演習	佐渡
第2回	ネイルケアとは	講義・演習	佐渡
第3回	ネイルケアの実践	講義・演習	佐渡
第4回	ネイルケアの実践	講義・演習	佐渡
第5回	メイクケアとは	講義・演習	蜂須賀
第6回	メイクケアとは	講義・演習	蜂須賀
第7回	メイクケアの実践	講義・演習	蜂須賀
第8回	メイクケアの実践	講義・演習	蜂須賀
第9回	障害者自立支援法についての国試対策	講義	加藤
第10回	障害者自立支援法についての国試対策	講義	加藤
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (100 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	配布資料
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護過程 1	石崎 利恵 ・ 澤浦 知子	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

様々な科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程とは何かを学ぶ。
また介護過程を展開し、適切な介護サービスができる能力を養う基礎とする。

◇到達目標

介護過程とは何かを知る。
介護過程の前提となる考え方（理想的な介護の方向性）を理解する。
情報収集から計画立案までの一連の流れを知る。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	介護過程とは（意義・目的）	講義	石崎
第2回	生活支援における介護過程の必要性	講義	石崎
第3回	介護過程の全体像	講義	石崎
第4回	介護過程の前提となる考え方・事例検討	講義	石崎
第5回	アセスメントの方法	講義	石崎
第6回	アセスメントの方法	講義	石崎
第7回	計画の立案	講義	石崎
第8回	評価	講義	石崎
第9回	まとめ	講義	石崎
第10回	試験	試験	石崎
第11回	アセスメントの方法（原因を考える）	講義・演習	澤浦
第12回	アセスメントの方法（見通しを考える）	講義・演習	澤浦
第13回	介護過程の展開方法（ビデオ教材）	演習	澤浦
第14回	介護過程の展開方法（ビデオ教材）グループワーク	講義・演習	澤浦
第15回	情報収集の方法 フェイスシート（現病歴・既往歴・症状・障害の把握）	講義・演習	澤浦

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程（中央法規出版）
参考図書	
留意事項	予習・復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護過程2 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

事例を用いて、ニーズを把握するためのアセスメントを行い自立支援に基づく介護計画を立案する。

◇到達目標

利用者を主体とした生活援助を行うことができる能力を身につける。利用者を理解するために情報収集を行い、分析し生活課題を把握できる。生活課題を解決・充足するための個別援助計画を立案できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	事例1 フェイスシートを用いて 利用者の概要を理解する	演習	
第2回	アセスメントシートを用いて 情報の分析をする	演習	
第3回	アセスメントシートを用いて 情報の分析をする	演習	
第4回	アセスメントシートを用いて 生活課題を把握する	演習	
第5回	アセスメントシートを用いて 生活課題を把握する	演習	
第6回	発表 グループ討論	演習	
第7回	個別援助計画を立案する	演習	
第8回	個別援助計画を立案する	演習	
第9回	個別援助計画を立案する	演習	
第10回	事例2 フェイスシートを用いて 利用者の概要を理解する	演習	
第11回	アセスメントシートを用いて 情報の分析をする	演習	
第12回	アセスメントシートを用いて 情報の分析をする	演習	
第13回	アセスメントシートを用いて 生活課題を把握する	演習	
第14回	介護目標と個別援助計画を立案する	演習	
第15回	介護目標と個別援助計画を立案する	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護過程（中央法規出版）
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護過程3 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子	2	30	前期	必修 選択

◇講義概要

- ・事例を用いてアセスメントから評価までの思考過程を学ぶ。
- ・事例を用い、食事 排泄 清潔 移動 コミュニケーション 生きがい 役割などを多面的・総合的に分析し、個別援助計画を立案する。

◇到達目標

専門知識・技術を根拠とした客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開能力を身につける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	事例 3 フェイスシート	演習	
第2回	事例 3 アセスメントシート 情報収集と分析	講義・演習	
第3回	事例 3 アセスメントシート 情報収集と分析	演習	
第4回	事例 3 個別援助計画	講義・演習	
第5回	事例 3 個別援助計画	演習	
第6回	事例 4 フェイスシート	演習	
第7回	事例 4 アセスメントシート 情報収集と分析	講義・演習	
第8回	事例 4 アセスメントシート 情報収集と分析	演習	
第9回	事例 4 個別援助計画	講義・演習	
第10回	事例 4 個別援助計画	演習	
第11回	帰校日	演習	
第12回	実習Ⅱ－1 介護過程の見直し グループワーク	演習	
第13回	実習Ⅱ－1 介護過程の見直し グループワーク	演習	
第14回	情報の収集と分析	演習	
第15回	個別援助計画	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%)	☐ 実技試験 (%)	☒ 演習評価 (100 %)
	☐ 小テスト (%)	☐ レポート (%)	☐ その他 (%)

教科書	介護過程 (中央法規)
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護過程4 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子	2	30	前期	必修 選択

◇講義概要

アセスメント、ニーズの把握、介護目標、個別援助計画・実施・評価までの介護過程を科学的根拠に基づいて展開する。実習で実践した介護過程の結果を、論拠と主張をもとにまとめる。

◇到達目標

専門知識・技術を根拠とした客観的で科学的な思考過程による介護過程が展開できる。
実習で実践した介護過程を科学的な思考過程に基づいてまとめる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	事例5 情報の収集・分析・生活課題の把握	演習	
第2回	情報の収集・分析・生活課題の把握	演習	
第3回	個別援助計画・実施	演習	
第4回	考察と評価	演習	
第5回	帰校日 個別援助計画の立案	演習	
第6回	事例研究 ケーススタディの目的と進め方	講義	
第7回	テーマの設定	演習	
第8回	序論	演習	
第9回	事例の概要	演習	
第10回	本論 情報の分析	演習	
第11回	本論 情報の分析	演習	
第12回	本論 生活課題・ニーズ	演習	
第13回	本論 介護目標と介護計画	演習	
第14回	本論 介護計画・実践	演習	
第15回	本論 介護計画・実践	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100 %)
	☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)

教科書	介護過程（中央法規） 介護事例研究の手引（日総研）
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護過程5 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子	2	30	後期	必修 選択

◇講義概要

実習で実践した個別援助計画を振り返り、事例報告としてまとめる。
利用者の真のニーズを十分に汲み取りながら援助したかを検討し、自分が展開し実践した介護を客観的に振り返る

◇到達目標

パワーポイントを用いて、実践した介護過程を事例報告会で発表する。
自分の介護観を確かなものにする。介護福祉士として福祉の現場で貢献する覚悟を身につける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	事例研究 本論 介護計画・評価	演習	
第2回	本論 介護計画・評価	演習	
第3回	考察	演習	
第4回	考察	演習	
第5回	まとめ	演習	
第6回	まとめ	演習	
第7回	事例研究 パワーポイント作成 序論 研究の目的 テーマ	演習	
第8回	事例の概要 情報の分析 生活課題	演習	
第9回	介護目標 介護計画	演習	
第10回	介護の実施と評価	演習	
第11回	考察・まとめ	演習	
第12回	事例研究 発表	演習	
第13回	事例研究 発表	演習	
第14回	事例研究 発表	演習	
第15回	事例研究 発表	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護事例研究の手引き (日総研)
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護総合演習1 (実務経験のある教員等による授業科目)	加納 岬	1	30	前期	必修 選択

◇講義概要

実習に対する心構えや技術の確認・実習後のまとめを通して介護福祉士としての知識・技術を深める。実習前に各施設種別の特徴や動機付け・技術確認を行い、介護実習の目標・課題を達成できるようにする。実習中の問題点の整理・課題解決・実習後のまとめを通して次回への展開を行えるようにする。

◇到達目標

介護実習の意義・目的・課題を理解する。
居宅・通所・入所・介護分野での理解と介護福祉士としての役割の明確化ができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	おれない心をはぐくむ 他職種連携からのアプローチ	講義・演習	
第2回	おれない心をはぐくむ 他職種連携からのアプローチ	講義・演習	
第3回	介護実習の意義と目的 介護実習 I-1 について	講義・演習	
第4回	認知症カフェの取り組み	講義・演習	
第5回	介護実習 I-1 デイサービス・デイケアについて	講義・演習	
第6回	認知症カフェ見学	講義・演習	
第7回	個人票の書き方と個人票の作成	講義・演習	
第8回	I-1 個人票の作成	講義・演習	
第9回	介護実習 I-2 障害者支援施設について	講義・演習	
第10回	介護実習 I-2 障害者支援施設について 特別講義	講義・演習	
第11回	I-2 個人票の作成	講義・演習	
第12回	記録の書き方	講義・演習	
第13回	実習に向けてのマナー講座 特別講義	講義・演習	
第14回	実習ファイルの作成 実習に対する注意事項	講義・演習	
第15回	生活支援技術の確認	講義・演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (100 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護総合演習2 (実務経験のある教員等による授業科目)	加納 岬	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

実習に対する心構えや技術の確認・実習後のまとめを通して介護福祉士としての知識・技術を深める。実習前に各施設種別の特徴や動機付け・技術確認を行い、介護実習の目標・課題を達成できるようにする。実習中の問題点の整理・課題解決・実習後のまとめを通して次回への展開を行えるようにする。

◇到達目標

介護実習の意義・目的・課題を理解する。
居宅・通所・入所・介護分野での理解と介護福祉士としての役割の明確化ができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	介護実習Ⅰ-1 まとめ	講義・演習	
第2回	実習Ⅰ-1 報告会	講義・演習	
第3回	実習Ⅰ-2 まとめ	講義・演習	
第4回	実習Ⅰ-2 報告会	講義・演習	
第5回	記録の振り返り	講義・演習	
第6回	小規模多機能 認知症対応型共同生活介護とは	講義・演習	
第7回	小規模多機能 認知症対応型共同生活介護とは 特別講義	講義・演習	
第8回	個人票の作成	講義・演習	
第9回	個人票の作成	講義・演習	
第10回	実習ファイルの作成 実習に対する注意事項	講義・演習	
第11回	実習Ⅰ-3 まとめ	講義・演習	
第12回	実習Ⅰ-4 まとめ	講義・演習	
第13回	実習Ⅰ-3 報告会	講義・演習	
第14回	実習Ⅰ-4 報告会	講義・演習	
第15回	施設レクリエーション (特別養護老人ホーム) 特別講義	講義・演習	

評価方法	□定期試験 (%) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) ■レポート (100 %) □その他 (%)
------	--

教科書	新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護総合演習3 (実務経験のある教員等による授業科目)	小林 玲子	2	30	前期	必修 選択

◇講義概要

・介護実習の意義と目的を理解し、実習に臨む基本的姿勢を習得する。 ・各実習施設の概要や特徴を理解し、学ぶべきポイントを整理することで、学生自身が目標を持って実習に取り組めるようにする。 ・実習後の振り返りを通して、実習での学びの活かし方を体得し、次回への展開を行えるようにする。

◇到達目標

・介護実習の意義・目的を理解して実習に臨むことができる。 ・実習施設のサービス内容や利用者像を述べるができる。 ・実習を通して、介護福祉士の役割について理解することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	今年度のスケジュール 実習Ⅱ－1の意義・目的について	講義	
第2回	介護老人福祉施設とは【施設理解】 (西ノ京苑 永山先生)	講義	
第3回	介護老人福祉施設・介護老人保健施設の基礎的理解	講義	
第4回	実習Ⅱ－1 個人票の作成	講義・演習	
第5回	自己計画表の作成	講義・演習	
第6回	バリアフリー展 インテックス大阪 見学	講義・演習	
第7回	バリアフリー展 インテックス大阪 見学	講義・演習	
第8回	自己計画表の作成	講義・演習	
第9回	介護老人保健施設とは【施設理解】 (ふれあい 武石先生)	講義	
第10回	実習Ⅱ－1の準備 (ファイル作成・実習に対する注意事項)	講義	
第11回	介護技術の総復習(1)～移乗・移動・ベッドメイキング～	演習	
第12回	介護技術の総復習(2)～排泄・着脱～	演習	
第13回	帰校日指導	演習	
第14回	実習のまとめ (記録まとめ・評価・礼状)	演習	
第15回	実習Ⅱ－1 報告会	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (100 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護総合演習4 (実務経験のある教員等による授業科目)	小林 玲子	2	30	後期	必修 選択

◇講義概要

- ・介護実習の意義と目的を理解し、実習に臨む基本的姿勢を習得する。
- ・各実習施設の概要や特徴を理解し、学ぶべきポイントを整理することで、学生自身が目標を持って実習に取り組めるようにする。
- ・実習後の振り返りを通して、実習での学びの活かし方を体得し、次回への展開を行えるようにする。

◇到達目標

- ・介護実習の意義・目的を理解して実習に臨むことができる。
- ・実習施設のサービス内容や利用者像を述べるができる。
- ・実習を通して、介護福祉士の役割について理解することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	実習Ⅰ―5の意義・目的・訪問介護とは	講義	
第2回	多職種連携授業 いのちの授業	講義・演習	
第3回	多職種連携授業 いのちの授業	講義・演習	
第4回	実習Ⅰ―5 個人票の作成	演習	
第5回	実習Ⅱ―2 個人票の作成	演習	
第6回	実習Ⅰ―5 事前準備 実習の確認	講義・演習	
第7回	多職種連携 ～チームアプローチについて①～ 5 学科合同	講義・演習	
第8回	多職種連携 ～チームアプローチについて②～ 5 学科合同	講義・演習	
第9回	自己計画表の作成	演習	
第10回	実習Ⅱ―2の事前準備 (ファイル作成・実習に対する注意事項)	講義・演習	
第11回	帰校日指導	演習	
第12回	実習のまとめ (記録まとめ・評価・礼状)	演習	
第13回	MG ゲーム	演習	
第14回	実習Ⅱ―2 報告会	演習	
第15回	実習Ⅰ―5 報告会	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (100 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
発達と老化1 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子 ・ 小林 玲子	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

小児期から老年期における成長と発達についての基本的理解・各発達段階についての課題を学習する。
高齢者の健康、健康長寿について学ぶ
高齢者の疾患・症状の特徴を学ぶ

◇到達目標

成長と発達について一連の流れを理解し、各発達段階における課題を述べることができる。
老化に伴う機能低下と日常生活への影響とその予防方法が理解できる。
高齢者の健康維持のための支援に必要な知識を身につける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	人間の成長と発達の基礎的理解 【1】～成長・発達の法則を中心に～	講義	小林玲子
第2回	人間の成長と発達の基礎的理解 【2】～様々な発達理論を中心に～	講義	小林玲子
第3回	発達理論（1） ～ピアジェ～	講義	小林玲子
第4回	発達理論（2） ～エリクソン・バルテス～	講義	小林玲子
第5回	各発達段階の概要	講義・GW	小林玲子
第6回	発達段階別にみた身体的成長と発達	講義	小林玲子
第7回	発達段階別にみた社会的成長と発達	講義・GW	小林玲子
第8回	健康長寿・高齢者の健康	講義	澤浦知子
第9回	高齢者の疾患・症状の特徴 廃用症候群と生活支援上の留意点	講義	澤浦知子
第10回	高齢者に多い疾患 骨格・関節疾患と生活支援上の留意点	講義	澤浦知子
第11回	高齢者に多い疾患 脳・神経疾患と生活支援上の留意点	講義	澤浦知子
第12回	高齢者に多い疾患 高血圧 動脈硬化と生活支援上の留意点	講義	澤浦知子
第13回	高齢者に多い疾患 脳血管疾患・虚血性心疾患と生活支援上の留意点	講義	澤浦知子
第14回	高齢者に多い疾患 糖尿病と生活支援上の留意点	講義	澤浦知子
第15回	試験		澤浦・小林

評価方法	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	発達と老化の理解（中央法規）生活支援技術Ⅲ（中央法規）
参考図書	
留意事項	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後は授業のポイント等をノートにまとめるなど復習しておくこと。

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
発達と老化2 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子 ・ 小林 玲子	2	30	前期	必修 選択

◇講義概要

- ・ 老年期の発達の定義や発達課題について理解を深め、老年期にどのような問題や課題があるのか等について具体的に学習する。(家族関係、生活基盤、喪失体験、セクシュアリティなど)
- ・ 高齢者の疾患・症状の特徴を学ぶ
- ・ 老化に伴う適応と社会的活動を学ぶ

◇到達目標

- ・ 「老いる」ことを理解し、老年期の問題・課題を社会的側面から捉え、説明することができる。
- ・ 老化に伴う機能低下と日常生活への影響とその予防方法が理解できる。
- ・ 高齢者の健康維持のための支援に必要な知識を身につける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	老年期の定義	講義	小林
第2回	老化とは	講義	小林
第3回	老年期の発達課題① ～代表的な発達理論 ハヴィガースト・エリクソン・ペック～	講義	小林
第4回	老年期の発達課題② ～代表的な発達理論 レヴィンソン・バルテス～	講義	小林
第5回	老年期の発達課題③ ～ 喪失体験 ～	講義	小林
第6回	老年期の発達課題④ ～ セクシュアリティ ～	講義	小林
第7回	老年期をめぐる今日的課題	講義	小林
第8回	老化に伴う心理的な変化と生活への影響	講義	澤浦
第9回	老化に伴う社会的な変化と生活への影響	講義	澤浦
第10回	高齢者に多い疾患 がんと生活支援上の留意点	講義	澤浦
第11回	高齢者に多い疾患 呼吸器疾患と生活支援上の留意点	講義	澤浦
第12回	高齢者に多い疾患 皮膚疾患と生活支援上の留意点	講義	澤浦
第13回	高齢者に多い疾患 感覚器疾患と生活支援上の留意点	講義	澤浦
第14回	高齢者に多い疾患 感染症と生活支援上の留意点	講義	澤浦
第15回	試験		

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	発達と老化の理解 (中央法規)
参考図書	
留意事項	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後は授業のポイント等をノートにまとめるなど復習しておくこと。

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
認知症の理解 1	岡田 律	1	30 (2)	前期	必修

◇講義概要

認知症に関する基礎的知識である、認知症の原因疾患と症状・生活障害や認知症の予防について理解し、個々の認知症への的確なケア提供ができるための知識について学ぶ。

◇到達目標

認知症の原因となる病気やその症状、生活障害、また予防について学び、認知症当事者の体験や支える家族や支援者についてももりかい考察できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	認知症とは何か ― 認知症の定義と診断基準、認知症の特徴	講義	
第2回	脳のしくみ・老化との関係について	講義	
第3回	認知症の人の心理を理解する	講義	DVD
第4回	認知症の症状―中核症状の理解	講義	
第5回	認知症の症状―BPSD（行動・心理症状）の理解	講義	
第6回	認知症の症状―生活障害を理解する	講義	
第7回	認知症の原因疾患（アルツハイマー型認知症・血管性認知症）	講義	
第8回	認知症の原因疾患（レビー小体型認知症・前頭側頭型認知症）	講義	
第9回	治療可能な認知症（正常圧水頭症・慢性硬膜下血腫や脳腫瘍・その他）	講義	
第10回	若年性認知症の理解 認知症の診断	講義	
第11回	重症度の評価・治療薬（薬物療法と非薬物療法）	講義	
第12回	認知症の予防・MC I（軽度認知障害）について	講義	
第13回	認知症を取り巻く状況 これまで ― 今 ― これから	グループワーク	
第14回	認知症ケアの理念と視点・認知症当事者からみえるもの	講義	DVD
第15回	試験		

評価方法	■試験（ 90 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（ 10 %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	最新 介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」中央法規
参考図書	講義中適宜紹介する
留意事項	予習、復習する

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
認知症の理解2	岡田 律・松岡 美穂子・長坂 剛夫	2	30	前期	必修 選択

◇講義概要

〔岡田〕 認知症の原因疾患や症状を理解し、的確なケアが行えるための知識を地域社会、人間関係、生活環境について学ぶ
〔松岡〕 認知症の原因疾患を理解した上で中核症状や行動・心理症状について具体的な対応(ケア)の方法を学ぶ コミュニケーションから捉える認知症の人の心の世界を考え、思考のプロセスを考える
〔長坂〕 思い出を用いた認知症高齢者の対人援助手段としての回想法の実践に必要な知識と技術を学ぶ

◇到達目標

〔岡田〕 認知症の人の個々にあった的確なケアが行えるようになるための知識を習得し、さらに地域で生活する認知症の本人とその家族をサポートできる支援体制や取組みについて理解する
〔松岡〕 パーソンセンタードケアを基本に、行動・心理症状の具体的な対応を理解する ひもときシートを活用し、認知症の人を理解する ユマニチュードケアを通して優しさを伝えるケアの基本を理解する
〔長坂〕 回想法の内容、効果、技術を学び、グループ回想法を活用して認知症高齢者の介護に活かすことができる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	認知症ケアの理念と基本視点	講義	岡田
第2回	認知症の当事者の視点からみえるもの ※DVD	講義	岡田
第3回	認知症の人の治療とケア 終末期医療と介護 ※DVD	講義	岡田
第4回	認知症の人のケアの実際 環境づくり	グループワーク	岡田
第5回	介護者支援、認知症の人の地域生活支援	講義	岡田
第6回	振り返り まとめ	講義	岡田
第7回	健康な高齢者の「物忘れ」と「認知症による記憶障害」の違いや認知症の中核症状と行動・心理症状の関わりポイントを理解する	講義	松岡
第8回	認知症の人への対応・コミュニケーションの方法およびケア方法について理解する(ユマニチュードケアなど)	講義・演習	松岡
第9回	パーソンセンタードケアはどのようなケアなのか？を知り、認知症ケアマッピング(DCM)を理解する	講義・演習	松岡
第10回	ひもときシートを用いて「関わった結果」より「どう考えるのか」という思考のプロセス(ひもとき)を理解する	講義・演習	松岡
第11回	高齢者心理と回想法概論	講義	長坂
第12回	回想法の技法と実践その1：カウンセリング技法の基本	講義・演習	長坂
第13回	回想法の技法と実践その2：グループ回想法の準備	講義・演習	長坂
第14回	回想法の技法と実践その3：困った場合の対応方法	講義・演習	長坂
第15回	試験	試験	小林

評価方法	■試験 (60 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) ■小テスト (10 %) ■レポート (10 %) ■その他(宿題、授業貢献度 20 %)
------	--

教科書	新・介護福祉士養成講座 第13巻 認知症の理解(中央法規出版)、随時配付プリント有り
参考図書	講義中に適宜紹介する
留意事項	予習、復習をすること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
障害の理解 1 (実務経験のある教員等による授業科目)	小林 玲子	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

- (1) 障害の捉え方や障害福祉諸制度における障害者の法的定義などの基礎的知識を理解する。
 (2) 障害のある人とその介護者家族への生活支援のあり方について下記の2つを視点に学習する。
 ①障害特性の理解 ②心理面、生活面、社会面からの理解

◇到達目標

- ・ 障害に関する基礎的知識を説明できる。
- ・ 障害のある人の生活支援について心理面・生活面・社会面から多面的に理解できる。
- ・ 介護者家族への支援を説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	障害の基礎的理解 (授業の導入)	講義・演習	
第2回	障害をどう捉えるか(1)～障害の定義～	講義	
第3回	障害をどう捉えるか(2)～ICFの考え方を中心に～	講義	
第4回	障害者福祉の基本的理念 ～ノーマライゼーション・リハビリテーション～	講義	
第5回	障害者福祉の基本的理念 ～インクルージョン・エンパワメント・ストレングス～	講義	
第6回	視覚障害の基礎的理解とその特性に応じた支援	講義	
第7回	聴覚・言語障害の基礎的理解とその特性に応じた支援	講義・演習	
第8回	肢体不自由の基礎的理解とその特性に応じた支援	講義	
第9回	知的障害の基礎的理解とその特性に応じた支援	講義・演習	
第10回	精神障害の基礎的理解とその特性に応じた支援	講義	
第11回	介護者家族支援の現状と支援の基本的視点	講義	
第12回	他職種連携と地域におけるサポート体制について	講義	
第13回	障害者福祉に関連する制度 ～障害者総合支援法など～	講義	
第14回	障害者福祉に関連する制度 ～障害者差別解消法など～	講義	
第15回	試験		

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	障害の理解；中央法規
参考図書	
留意事項	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後は授業のポイント等をノートにまとめるなど復習しておくこと。

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
障害の理解 2	大西 和幸 藤井 利江 ・ 北吉 一子 浅井 伊知人 ・ 高曲 友理子	2	30	前期	必修 選択

◇講義概要

〔大西〕発達障害についての専門的な知識を学び、障害特性や関わり方など現場で活かせる技術を身につけることを目指す 〔藤井・北吉〕介護福祉士として疾患の特徴から難病のある人の生活を知り支援のあり方を学ぶ 〔浅井・高曲〕様々な障害の概念や特性について学ぶ 障害のある方々に対する支援方法やチームアプローチ等を学び、支援技術に関する理解を深める
--

◇到達目標

〔大西〕障害特性を正しく理解し、現場において適切な介護が行えることを目指す 〔藤井・北吉〕難病について基礎的な知識を学び、必要な支援を理解する 〔浅井・高曲〕「障害のある方々に寄り添う支援」とはどんな支援なのかを考え、実際の障害者支援の現場を具体的にイメージできるようになる
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	発達障害についての概要(発達障害者支援法・支援の現状)	講義	大西
第2回	それぞれの発達障害の特性(自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・限局性学習症)	講義	大西
第3回	アセスメント(評価)方法について	講義	大西
第4回	特性に合わせた関わり方、配慮点	講義	大西
第5回	支援の現状(子供への支援、大人への支援、保護者支援、就労支援)	講義	大西
第6回	「難病の特性の理解」「難病とは」「筋ジストロフィー」	講義	藤井
第7回	「おもな難病の理解(ALS)」	講義	藤井
第8回	「おもな難病の理解(悪性関節リウマチ)」「特性に応じた支援」	講義	北吉
第9回	「おもな難病の理解(パーキンソン病)」	講義	北吉
第10回	難病のある人の食事支援	講義	北吉
第11回	運動機能障害について	講義	浅井
第12回	高次脳機能障害について	講義	浅井
第13回	知的障害について	講義	高曲
第14回	重症心身障害について	講義	高曲
第15回	障害のある方々(かざぐるまに通う当事者)との交流、作業体験	演習	高曲
第16回	試験	試験	小林

評価方法	■試験 (30 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) ■レポート (70 %) □その他 (%)
------	--

教科書	介護福祉士養成講座 第14巻 障害の理解(中央法規出版)、プリント配付
参考図書	病気がみえる⑦脳・神経、難病ケアガイド DVD「あなたの笑顔が見たいから」(岐阜県健康福祉部障害福祉課)
留意事項	PC/OHP 使用 予習復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
こころのしくみ	向野下 紋香	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

日常生活の中での人の心や行動について考えるための基礎的概念を学ぶ
心の働きや心理的問題についての理解を通じて、介護福祉場面における他者との関わり方を考察する

◇到達目標

心理学の基礎的な用語について理解し、説明することができる
心理学の諸理論に基づいて、介護福祉の現場でどのように考え、動くかを着想できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	こころとは何か	講義	
第2回	脳の機能	講義	
第3回	学習① 学習の基礎理論	講義	
第4回	学習② 条件づけの臨床的応用	講義	
第5回	記憶	講義	
第6回	思考・感情	講義	
第7回	精神障害	講義	
第8回	欲求・動機	講義	
第9回	適応	講義	
第10回	性格・知能	講義	
第11回	発達① 乳幼児期の発達	講義	
第12回	発達② 青年期・成人期・老年期の発達	講義	
第13回	心理臨床① 高齢者への心理療法	講義	
第14回	心理臨床② 認知行動療法・家族療法	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 定期試験 (50 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (50 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	特になし（プリント配布）
参考図書	『最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』 『最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解』
留意事項	予習・復習すること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
こころとからだ1 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子	1	45	前期	必修 選択

◇講義概要

- ・人体の構造・機能の基本を学ぶ
- ・疾病の発生のメカニズムを学ぶ
- ・心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイントを学ぶ。

◇到達目標

- ・疾病の予防の視点を身につけ、健康を意識した支援に繋げる。
- ・介護実践に必要な観察力・判断力を培う。
- ・医療職と連携できる能力を養う。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	からだの各部位の名称	講義	
第2回	からだの成り立ちの理解	講義	
第3回	移動のしくみ 姿勢の種類	講義	
第4回	骨・関節のしくみ	講義	
第5回	筋肉のしくみ	講義	
第6回	歩行と移動	講義	
第7回	機能低下と廃用症候群	講義	
第8回	食事のしくみ 栄養と水分	講義	
第9回	口腔から食道までのしくみ	講義	
第10回	嚥下運動	講義	
第11回	機能低下 誤嚥	講義	
第12回	脱水	講義	
第13回	排泄のしくみ	講義	
第14回	消化管のしくみ 胃 小腸のしくみ	講義	
第15回	肝臓と膵臓の役割	講義	
第16回	排便のしくみ 大腸のしくみ	講義	
第17回	腎臓のしくみ	講義	
第18回	膀胱のしくみと排尿	講義	
第19回	尿失禁	講義	
第20回	脳と神経のしくみ	講義	
第21回	自律神経のしくみ	講義	

令和 5 年度 介護福祉学科 シラバス

第 22 回	総復習	講義	
第 23 回	試験	試験	

評価方法	■ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ■ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ■ その他（ 授業第度 %）
------	---

教科書	こころとからだのしくみ（中央法規）
参考図書	
留意事項	予習復習をすること

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
こころとからだ2	安永 龍子	1	45	後期	必修 選択

◇講義概要

・人体の構造・機能を学ぶ ・生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみについて学ぶ ・心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響について学ぶ ・変化に対する観察ポイントや医療職との連携のポイントを学ぶ
--

◇到達目標

・人体の構造・機能について説明できる ・生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみについて説明できる ・心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響について説明できる ・変化に対する観察ポイントや医療職との連携のポイントについて説明できる
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	心臓の構造と機能	講義	
第2回	肺の構造と機能	講義	
第3回	身じたくに関連したこころのしくみ 身じたくの意義	講義	
第4回	頭部・顔面のしくみ 眼・耳・鼻の構造と機能	講義	
第5回	爪・毛髪・口腔の構造と機能 口臭と洗顔のしくみ	講義	
第6回	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響	講義	
第7回	身じたくの観察ポイントと対応 医療職との連携のポイント	講義	
第8回	入浴・清潔保持に関連したこころのしくみ	講義	
第9回	入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ	講義	
第10回	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	講義	
第11回	入浴・清潔保持における観察のポイントと対応	講義	
第12回	入浴・清潔保持における医療職との連携のポイント	講義	
第13回	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	講義	
第14回	睡眠の質を高める環境条件や生活習慣	講義	
第15回	休息・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下	講義	
第16回	睡眠障害や睡眠不足が及ぼす影響	講義	
第17回	睡眠での観察のポイント 医療職との連携のポイント	講義	
第18回	人生の最終段階に関連する「死」のとりえ方	講義	
第19回	終末期（ターミナル期）・「死」に対するこころの変化	講義	
第20回	終末期から危篤状態	講義	

令和 5 年度 介護福祉学科 シラバス

第 21 回	死後のからだの理解	講義	
第 22 回	終末期における医療職との連携	講義	
第 23 回	試験	筆記試験	

評価方法	■試験 (80 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) ■小テスト (20 %) □レポート (%) □その他 (%)
------	---

教科書	介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ
参考図書	
留意事項	事前に教科書を読んで学習しておくこと

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
医療的ケア1 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子 ・ 小林 玲子	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

- ・介護福祉士が医療的ケアを担うことになった背景を理解する。それを踏まえて、介護福祉士としての役割及び適切なケアについて学習を深める。また、心肺蘇生法の基礎知識及び手技を習得する。
- ・健康状態を把握するための観察法とバイタルサインの測定法を習得する。

◇到達目標

- ・医療倫理を踏まえて、介護福祉士の役割を述べることができる。
- ・健康状態を適切に把握し、利用者の急変に気づく能力を身につける。
- ・心肺蘇生を正しく実施することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	医行為の理解及び医療倫理	講義	小林
第2回	喀痰吸引等制度の理解（１）～医療的ケア実施の背景を中心に～	講義	小林
第3回	喀痰吸引等制度の理解（２）～制度の概要を中心に～	講義	小林
第4回	医療的ケアの安全な実施とリスクマネジメント	講義	小林
第5回	健康状態を知る項目	講義	澤浦
第6回	バイタルサインとは 体温	講義	澤浦
第7回	バイタルサインとは 脈拍と血圧	講義・演習	澤浦
第8回	バイタルサインとは 呼吸	講義・演習	澤浦
第9回	体温 脈拍 呼吸の測定法	演習	澤浦 小林
第10回	血圧の測定法	演習	澤浦 小林
第11回	急変状態とその対応、日頃の準備	演習	澤浦 小林
第12回	心肺蘇生法	演習	澤浦 小林
第13回	心肺蘇生法	演習	澤浦 小林
第14回	心肺蘇生法 （見極め・まとめ）	演習	澤浦 小林
第15回	試験		

評価方法	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	医療的ケア （中央法規）
参考図書	
留意事項	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後は授業のポイント等をノートにまとめるなど復習しておくこと。

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
医療的ケア2 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子 ・ 小林 玲子	2	38	前期	必修 選択

◇講義概要

- ・呼吸のしくみとはたらきを理解し、喀痰吸引実施と手順と留意点、喀痰吸引に関わる感染予防、安全確認、緊急対応について理解する。
- ・消化器の解剖生理を理解し、経管栄養実施にあたっての手順と留意点、必要なケアについて学習する。

◇到達目標

- ・呼吸のしくみとはたらき、呼吸器系の感染予防、喀痰吸引により生じる危険、安全確認の知識を身につける
- ・経管栄養が必要な状態像を説明できる。
- ・経管栄養に関する基礎的知識及び実施に当たっての留意点、必要なケアを述べることができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	呼吸のしくみとはたらき	講義	澤浦
第2回	呼吸器疾患	講義	澤浦
第3回	いつもと異なる呼吸状態 呼吸困難とそれがもたらす苦痛や障害	講義	澤浦
第4回	痰の貯留を示す状態	講義	澤浦
第5回	喀痰吸引が必要な状態	講義	澤浦
第6回	人工呼吸器が必要な状態	講義	澤浦
第7回	気管カニューレ内部の吸引と喀痰吸引に伴うケア	演習	澤浦
第8回	気管カニューレ内部の吸引と喀痰吸引に伴うケア	演習	澤浦
第9回	気管カニューレ内部の吸引と喀痰吸引に伴うケア	演習	澤浦
第10回	喀痰吸引に関連した感染とその予防	演習	澤浦
第11回	喀痰吸引により生じる危険と安全対策 報告と記録	講義 演習	澤浦
第12回	消化器系のしくみと働き	講義	小林
第13回	経管栄養とは ～その適応としくみ～	講義	小林
第14回	経管栄養で用いる器具及び栄養剤等に関する基礎的理解	講義	小林
第15回	経管栄養をしている利用者（患者）の介護（Ⅱ）	講義	小林
第16回	経管栄養をしている利用者（患者）の介護（Ⅱ）	講義	小林
第17回	経管栄養の実施の手順と留意点（Ⅰ）	演習	小林
第18回	経管栄養の実施の手順と留意点（Ⅱ）	演習	小林
第19回	試験		

評価方法	☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 演習評価（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ その他（ ％）
------	---

教科書	医療的ケア（中央法規）
参考図書	
留意事項	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後は授業のポイント等をノートにまとめるなど復習しておくこと。

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
医療的ケア演習	澤浦 知子 ・ 小林 玲子 石崎 利恵 ・ 岡田 律	2	20	前期	必修 選択

◇講義概要

・安全で確実な喀痰吸引の技術と、喀痰吸引に伴うケアを習得する。 ・安全で確実な経管栄養の技術と、経管栄養に伴うケアを習得する。
--

◇到達目標

・必要器材のしくみと使用方法、その管理方法を習得する。 ・利用者の状態観察と留意点を理解できる。 ・実施後の記録報告事項を理解する。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	感染予防 清潔操作	演習	
第2回	喀痰吸引の実施 (鼻腔・口腔内吸引)	演習	
第3回	喀痰吸引の実施 (鼻腔・口腔内吸引)	演習	
第4回	喀痰吸引の実施 (気管カニューレ内吸引)	演習	
第5回	喀痰吸引の実施 (気管カニューレ内吸引)	演習	
第6回	喀痰吸引の実施 (気管カニューレ内吸引)	演習	
第7回	経管栄養の実施 (経鼻経管栄養)	演習	
第8回	経管栄養の実施 (経鼻経管栄養)	演習	
第9回	経管栄養の実施 (胃ろう経管栄養)	演習	
第10回	経管栄養の実施 (胃ろう経管栄養)	演習	
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☒ 実技試験 (100 %) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	医療的ケア (中央法規)
参考図書	
留意事項	喀痰吸引及び経管栄養の実施手順を熟読して、演習に臨むこと。

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
福祉レクリエーション (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	1	18	前期	必修 選択

◇講義概要

日本レクリエーション協会で示された学習内容に基づき、レクリエーション活動の意義と支援者としての役割を学ぶ

(レクリエーションインストラクター資格取得科目 課程認定校資格取得に付きその他必要要件あり)

◇到達目標

レクリエーション活動の意義を理解し、福祉社会でのレクリエーションのあり方を理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	はじめまして 遊びを使った自己紹介 (レク支援の方法)	講義・演習	
第2回	レクリエーションの理解とアイスブレーキング (レク支援の方法)	講義・演習	
第3回	レクリエーションとは (レクリエーション概論)	講義・演習	
第4回	集団心理の特性とレクリエーション (楽しさと心の元気づくり) 元気アップリーダー研修兼ねる	講義	
第5回	福祉の中のレクリエーション (レクリエーション概論)	講義	
第6回	生活の3原則とレクリエーション(レク支援の方法)	講義	
第7回	生活のレク化とレクの生活化 (楽しさと心の元気づくり)	講義	
第8回	手先を使ったレク (レク支援の方法) 介護レクサポーター研修兼ねる	講義・演習	
第9回	うたを使ったレク (レク支援の習得) 介護レクサポーター研修兼ねる	講義・演習	
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法	☐ 定期試験 (%)	☐ 実技試験 (%)	演習評価 (%)
	☐ 小テスト (%)	■レポート (80%)	■その他 (20%)

教科書	なし
参考図書	楽しさを通した心と体の元気づくり レクリエーション支援の基礎 一部冊子あり
留意事項	資格取得科目に付きレクリエーション現場実習を課す

令和5年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
障害者スポーツ	中西 信之	1	12	後期	必修 選択

◇講義概要

障がい者スポーツを理解し、障がい者のスポーツを学ぶ (障がい者スポーツ初級指導員 資格取得科目 課程認定校に付きその他必要要件あり)
--

◇到達目標

介護従事者として障がい者スポーツの関わり方を理解する

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	障害者スポーツの意義と理念全国障害者スポーツ大会の概要 (レク概論・レク支援)	講義	橋本
第2回	障害者スポーツに関する諸施策 (レク概論・レク支援)	講義・演習	橋本
第3回	障害の理解と障害者スポーツとその関わり(レク概論・レク支援)	講義・演習	西村
第4回	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質 (レク支援の方法) コミュニケーションスキルの基礎	講義	中西
第5回	各地域の障害者スポーツ推進の取り組み (レク活動の習得)	講義・演習	中西
第6回	障害者との交流 (ツインバスケ) (レク活動の習得)	演習	中西
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (90%) ☒ その他 (10%)
------	---

教科書	使用しません
参考図書	適宜印刷配布
留意事項	障がい者スポーツ初級指導員取得科目 (資格は最終学年に卒業見込み者)